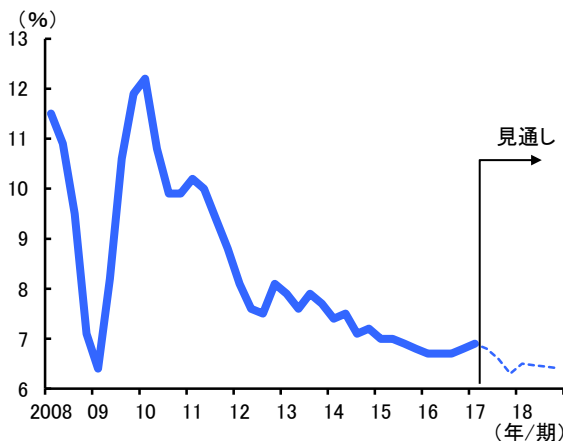


中国経済に持ち直しの動き

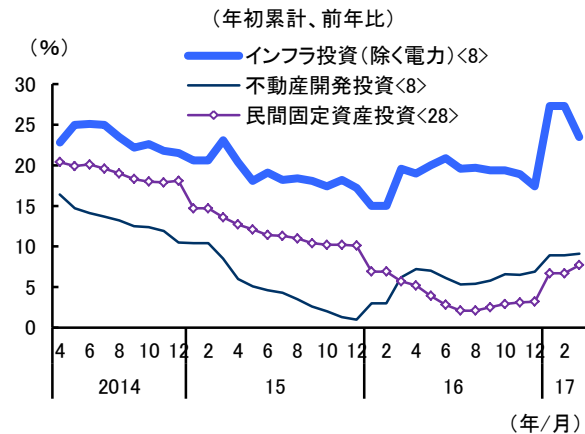
— 利上げやインフラ投資抑制により景気は緩やかに減速 —

- (1) 中国では、1～3月期の実質GDP成長率が前年同期比+6.9%と、2四半期連続で上昇(図表1)。景気減速に歯止めがかかっただけでなく、持ち直しの動き。
- (2) 内訳をみると、安定成長を優先した当局の下支えにより、インフラと不動産開発関連の投資が大幅に拡大(図表2)。民間固定資産投資も景況感の改善を受けて持ち直し。輸出も世界経済の拡大によって前年比プラスに転換(図表3)。雇用・所得環境も改善の兆しがみられ、実質小売売上高の増勢鈍化にも歯止めの兆し。ほぼすべてのセクターにわたって前向きな動き。
- (3) 他方、住宅市場の過熱状況が続くなど、企業や個人による投機的な動きが持続。過剰生産が指摘されてきた重工業セクターの生産も再び拡大。こうしたなか、政府はリバースレポ金利の引き上げやインフラプロジェクトの承認抑制を開始(図表4)。
- (4) 今後、政府は構造調整の優先度合を高め、景気過熱にブレーキをかけるとみられ、成長率は緩やかに鈍化すると予想。2017年の実質成長率は2016年と同じく+6.7%になる見込み。

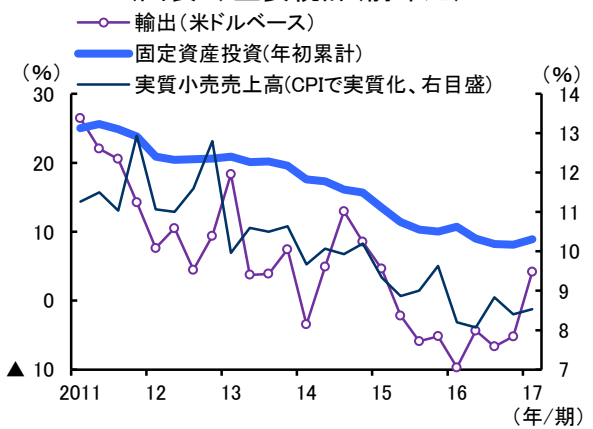
(図表1) 実質GDP成長率(前年比)



(図表2) 固定資産投資の内訳



(図表3) 主要統計(前年比)



(図表4) 新規着工総投資計画額

